

土地の利活用で地域の発展



北川 克則 議員
(令和新風加西)



問 地区計画の策定について。

答 地区計画は一定の規模の街区について、その地区の特性にふさわしい整備開発や保全を行うために定めるまちづくりの計画です。加西市では、市街化区域と市街化調整区域で策定が可能です。

地区計画の策定は、大きく分けて3つの理由により策定します。1つ目は地域の声に応えるため、2つ目は事業者の要望に応えるため、3つ目は市の将来構想の実現や事業実施のためです。また、地

区計画が策定できる地区のパターンは3つで、1つ目は新しく開発整備を行いたい場合、2つ目は地域のまちづくりの課題を規制緩和で解決したい場合、3つ目は整備された町の特性を維持保全したい場合です。

問 市街化調整区域内における地区計画の役割は。

答 都市計画法で建築が規制されている市街化調整区域では、全国的にも人口や産業の流出が加速して地域の活力低下を招いており、加西市も同じ状況です。加西市は人口の3分の2が市街化調整区域に居住しており、県が市街化調整区域を維持して建築規制を続ける限り、地域活性化のための施策として、特別指定区域や地区計画制度をフル活用して規制緩和を進めたいと考えています。

市街化調整区域が大半を占める

地方都市にとって、地区計画は非常に重要で単なる規制緩和で終わらない、地域の活性化やまちづくりに有効なツールと考えます。

問 地区計画の今後と展望は。

答 地区計画は産業振興だけでなく、住環境形成にも一翼担っています。殿原町地区では令和5年度中に地区計画を策定し、産業団地と圃場整備に並行して町中の開発も進めたいと考えています。近い将来、各小学校区で1つ2つ、住環境形成の取組を進めることができれば、地域の元気を少しでも取り戻すことができるのではと考えます。活気あふれる未来志向のまちづくりのため、皆様の協力をよろしくお願いします。

■その他の質問項目

- ・加西 STEAM 教育推進について

不登校と国語教育



土本 昌幸 議員
(公明党)



問 不登校の状況をお答えください。全国的にも増加しているとの報告があります。

答 令和2年度の全国の不登校児童・生徒の割合は小学校1.01%、中学校4.30%に対し、加西市では小学校は0.78%、中学校4.8%で増加傾向です。不登校の解消に向けて、スクールカウンセラーなどの専門職や担当教員により多様化する原因を踏まえ対応していきます。

問 国語教育の重要性で、聞く、話す、つまりコミュニケー

ションが大切で、不登校や引きこもりの大きな要因ではと言われていています。基本の再認識が重要ではと考えます。

答 国語教育では音読、劇化、俳句等の創作活動を通して、豊かな表現方法や作文、感想文、話合いや討論等を通じてコミュニケーション能力の基礎となる自己表現力を習得しています。

学校現場では対話や表現の時間を取り入れ、児童・生徒の自己表現能力やコミュニケーションスキルが身につくよう注力していきます。

問 夏休み明けの取組ですが、生活習慣の大きな変化が原因で休学から不登校になるケースもあり、具体的な取組が必要と考えます。

答 夏休み後半は生活リズムが崩れることが多く、特に近年ではゲームやネット使用により昼夜逆転傾向の子供もいます。また宿題、課題を計画的に進めるのは難しく、対応策として学校では夏休み前に日課表を立て、規則正しい生活を送る取組を行っています。保護者と一緒に作成し、家庭、学校両面から規則正しい生活を送れるよう支援しています。

また、新学期スタート時は時間割を工夫して負担を軽減し、夏休み中の課題の展示や発表会を実施し、休みから学校生活へ切り替えられるよう取り組んでいます。

■その他の質問項目

- ・参議院選挙結果について
- ・男女共同参画について
- ・観光振興について
- ・加西インター産業団地について